



コロナ禍でもできることを

～今年のまち協活動報告

5月

浜益ご縁米プロジェクト



春を迎え、大学生や社会人となった若者たちに降りかかったのは「人と接触できない」状況。新しい友達を作ること、アルバイトをすることもままならず、孤立してしまふ人が増えないようにと、NPO法人エゾロックが企画しました。

浜益のお米を道内500人の若者に配布し、参加者をオンラインでつないで一緒にご飯を食べる「いただきますナイト」にも参加。若い子たちに浜益を知ってもらおうきっかけになりました。

いよいよ今年もあとわずか。話題と言えればやはり新型コロナウイルスでしょう。2月下旬の一斉休校から始まり、春には緊急事態宣言と、いつもの暮らしが一転する状況となりました。特に観光業では人を集められない・バスツアーが難しい・海水浴場の閉鎖・イベント中止と八方塞がりと言えるような状態に。

そんな中でも「自分たちでできる活動を」と、夏から徐々に小イベントを行ってきました。年末ということで今年の活動を振り返ってみます。

7月・9月

フットパス夏の巻・秋の巻



今年で最後となるはずだった「いっぺかだれやヘルシーウォーク」は残念ながら中止となりましたが、後継事業として温めていた「フットパス」を2回開催しました。

フットパスは最低限のスタッフと少人数の参加者で気軽に行える点が高く、季節ごとに違う浜益の風景を楽しむこともできました。参加者が少ないぶん会話もしやすく、心の距離を寄せることができるとも魅力だと感じました。

9月

区内子ども向け
夜のいきもの観察会



コロナの影響で小・中学校ともに休校になり、いつものようなお出かけもしづらい状況で、子どもたちも我慢の日々が続いています。

そんな中でも地域で楽しめること、ワクワクする体験を作ってあげたくて、初めて「コウモリ観察会」を開催しました。

とにかくコウモリに会えそうな場所ということで、当初予定していた場所とは全く違うところでの実施になったのですが、夜道を友達と歩くワクワク、探知機を持ってコウモリを探すワクワクを楽しんでもらえたようです。

10月

浜益！秋の魅力たっぷり旅



少しづつ道内でのバスツアーが再開されるなか、浜益でも新北海道スタイルを取り入れてバスツアーを行いました。こちらはアミーケ・インターナショナル株式会社とまち協の共同企画です。

昨年が続いて2回目となったツアーは、情報解禁からまもなく満席に。ありがたいことです。

はまます郷土資料館でニシン魚の歴史に触れたほか、きむら果樹園ではリングゴとナシの収穫体験を。昼食は浜益牛や浜益米のおにぎり、角谷商店のジンギスカンなど地元の味覚を堪能してもらいました。

食後には浜益豊漁太鼓の体験、見送りの演奏、そして最後は浜益温泉で入浴をして無事何事もなくツアーが終了しました。

ご協力いただいた区内のみなさま、ありがとうございました

10月

アンテナショップ試験営業

10月11日から11月22日までの毎週日曜日（10月25日のみお休みしました）浜益コミセンきり横のスペースにプレハブを設置して、アンテナショップの試験営業を行いました。

店内には魚介類や果物、お米に野菜、ジャムなどの加工品と、浜益の物産品が勢ぞろい。開店前の時間には地元の方が「何やるの？」とのぞきに來てくれました。営業中に様子を見に來てくれた方も通りがかりの車が立ち寄ってくれたり、海幸で食事した方が道路を渡って來てくれたり。中学生と先生がお手伝いに来てくれたり。最終日だけ雨に当たりましたが、お天気にも恵まれ楽しく営業できました。



プレハブの隣にあった、気になる丸い建物。NPO法人エゾロックのみなさんの協力で、休憩スペースとして木のおもちゃを置いていました。あの建物はE.Z.ドームと言います。あつ組み立てるのに約1時間半、被災地や宿泊場所がない地方へボランティアに行った際、早急にプライベートルームを作れるというものです。

スタッフのつぶやき

まち協の活動がいい波に乗ってきた矢先、コロナという未知のウイルスによって活動は休止状態となり、会議で集まることすらできない春を迎えた今年。

やりたいことはたくさんあるのに、何もできないモヤモヤを抱えていましたが、夏頃から徐々に動き始めることができたのは、メンバーの「やってみよう精神」があったからだよな、と思います。

何かを行うとき「何かあったらどうするんだ」と、万が一を心配しますよね。もちろんそれは当然のことですが、それを言い続けていたらいつまでも何もできないんです。できる限りの対策を考えて、実行して、それで万が一が起きても学習して次の失敗をしないようにすればいいと個人的には考えています。

とはいえ未知のウイルスが潜む中での活動は、正直不安がつきまといます。でも対策をきちんとすればできることがある、と実感したのも確かなのです。

メンバーの中に「何かあったら」という人がいたら、今年の活動は何もできなかったでしょう。まち協だけではありません。漁協青年部、浜益小、浜益中など、同じくらいの熱量を持って現状を乗り越えようとしている人たちがいる浜益はすごいと思います。

今後もコロナほか安全対策をしっかりと考えて、未来につながる活動をしていきたいです。
(渡辺真奈美)

冬の活動（予定）

・フットパス冬の巻

スノーシューを履いて雪の上を歩きます。区民の参加も歓迎！

・雪板で遊ぼう！

スノーボードよりも気軽に、その辺の坂で遊べる雪板。数に限りはありますが、やってみたい方はぜひ連絡を。

・中止のイベント

例年行っている「黄金山のイチイを見に行くスノーシューツアー」は、新型コロナウイルスと北海道の状況を考え中止としました。

【Instagram開設しました！「浜益観光まちづくり」で検索してください！】